

「甲武信」は、地質や岩石の種類の豊富さが植物だけでなく、生息する動物の多様性を高めており、チョウ類は希少種の宝庫となっている。NPO法人が中心となり地方自治体が大学と協同して展開する多摩川源流大学をはじめ、数々の民間団体が地域住民主導のもとに活動している。

1 名称、構成地域

【名称】

甲武信生物圏保存地域（甲武信ユネスコエコパーク）

【構成地域：4県12市町村】

埼玉県（秩父市、小鹿野町）

東京都（奥多摩町）

山梨県（甲府市、山梨市、大月市、北杜市、甲斐市、甲州市、小菅村、丹波山村）

長野県（川上村）

2 特徴

- ・ 甲武信ヶ岳、金峰山、雲取山等の日本百名山に挙げられる山々が連なる奥秩父主稜を中心に、荒川、多摩川、笛吹川（富士川）、千曲川（信濃川）源流部及びその周辺地域をエリアとしている。
- ・ この地域は、山岳や森に加えて御岳昇仙峡等の渓谷が、四季折々に彩りを変える日本的で素朴な美しい自然に恵まれており、首都圏近郊にありながら、連続性があり、生物多様性に富む、貴重な生態系が広く保全されている。
- ・ 古来人々を楽しませてきた民俗芸能が保全・伝承され、山岳・神社信仰にまつわる多様な文化が、今もなお息づいている地域でもある。
- ・ 山肌を覆う深い森は、首都圏や周辺地域の水源域として古くから守られてきており、現在でも上流域と下流域の水の繋がりを意識して、森づくりや自然保護等に取り組む団体や事業者、地域住民も多い。

3 ゾーニング

- ・ 総面積 190,603ha
- ・ 核心地域（13,364ha）
主に秩父多摩甲斐国立公園の特別保護地区と第一種特別地域を設定
- ・ 緩衝地域（70,858ha）
主に秩父多摩甲斐国立公園の第二種、第三種特別地域、普通地域を設定
- ・ 移行地域（106,381ha）
主に秩父多摩甲斐国立公園区域外の居住区を設定

核心地域 —生物多様性を保全する地域—

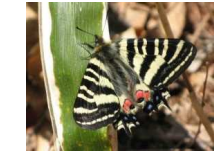
- ・ 西の瑞牆山から東の雲取山まで、奥秩父主稜の亜高山帯が連なる源流の地
- ・ 首都圏に近接しながら、生物多様性に富む、自然環境が保全される地域



甲武信ヶ岳



千曲川源流



高山チョウなど
希少種の宝庫



豊富なカエデ類

緩衝地域 —核心地域のバッファー、学術的研究支援を行う地域—

- ・ 地域資源を活用したエコツーリズムや環境学習の推進の場
- ・ 急峻な谷と山岳が生む、渓谷美、景観



御岳昇仙峡



西沢渓谷



多摩川源流大学



ユネスコスクール

移行地域 —経済と社会の発展を行う地域—

- ・ 地域資源を活用した農産物や伝統工芸品の生産等の経済活動
- ・ 伝統文化の保全・継承



一之瀬高橋の春駒



秩父夜祭



三峯神社



大露頭 ようばけ



浅尾ダイコン



きおび編み



日本一の生産量を誇る
棚式栽培によるブドウ畑

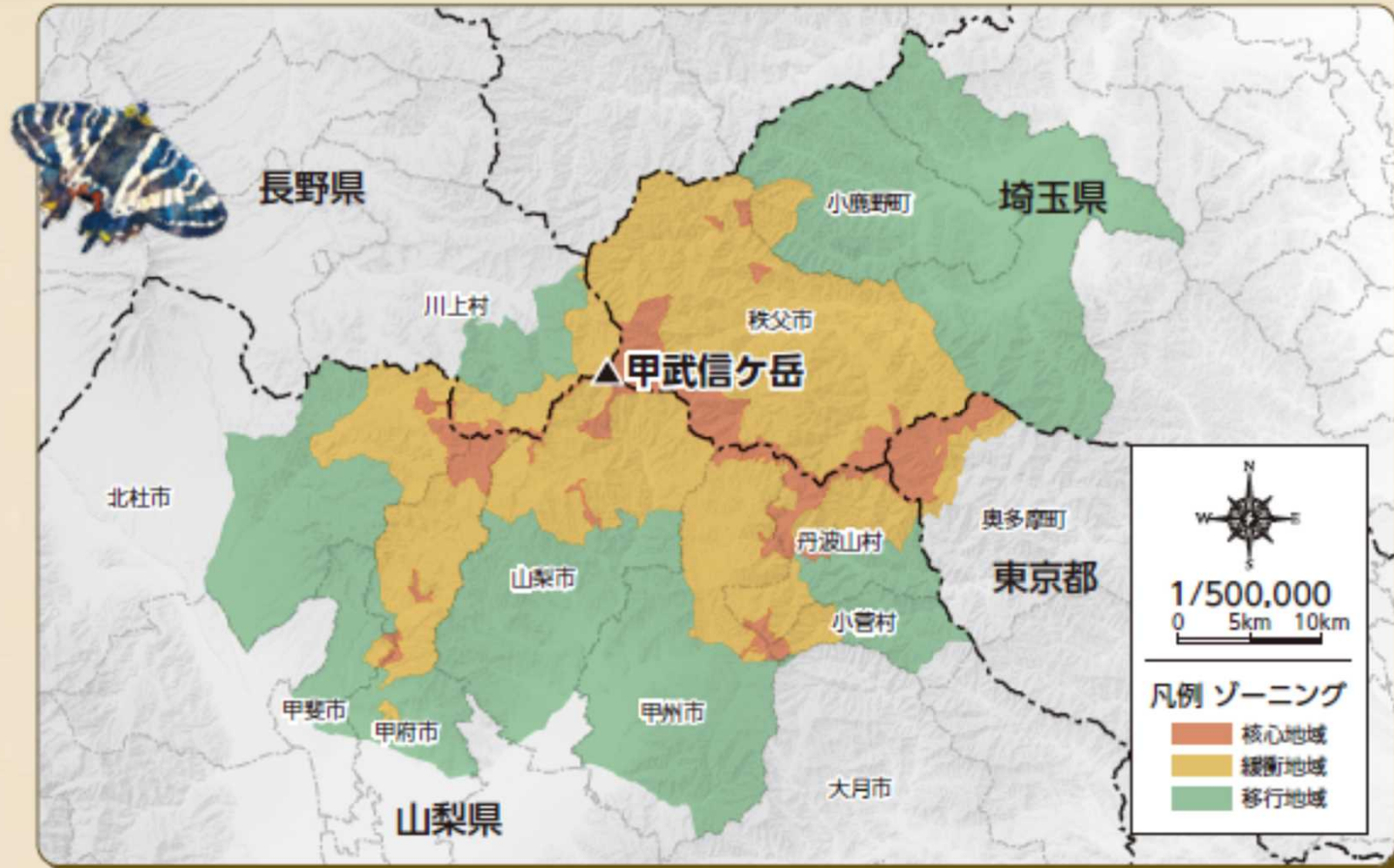


高原野菜

4 スケジュール

- ・平成30年3月 国内推薦決定
- ・平成30年9月 ユネスコへ英文申請書提出
- ・令和元年6月 MAB計画国際調整理事会による審議、登録の可否決定

甲武信ユネスコエコパークエリアマップ



※ 核心地域と緩衝地域は、秩父多摩甲斐国立公園、秩父山地生物群集保護林、金峰山生物群集保護林や秩父山地緑の回廊等に指定されており、適切な保護・保全が図られている。

※ 移行地域は、国立公園に隣接する山間地や山間盆地を主としている。第一次産業を中心とした土地利用がなされ、自然環境の保全と調和した持続可能な発展を念頭に置いた取り組みが推進されている。